



CP+2024 日本写真学会ブース出展

CP+2024 2月22日～25日パシフィコ横浜展示ホール

日本写真学会は、カメラ映像機器工業会（CIPA）からのお誘いを受け、CP+2024に出展を行いました。CP+2024は2024年2月22日～25日パシフィコ横浜展示ホールにて以下の概要で行われた。



主催：カメラ映像機器工業会（CIPA）

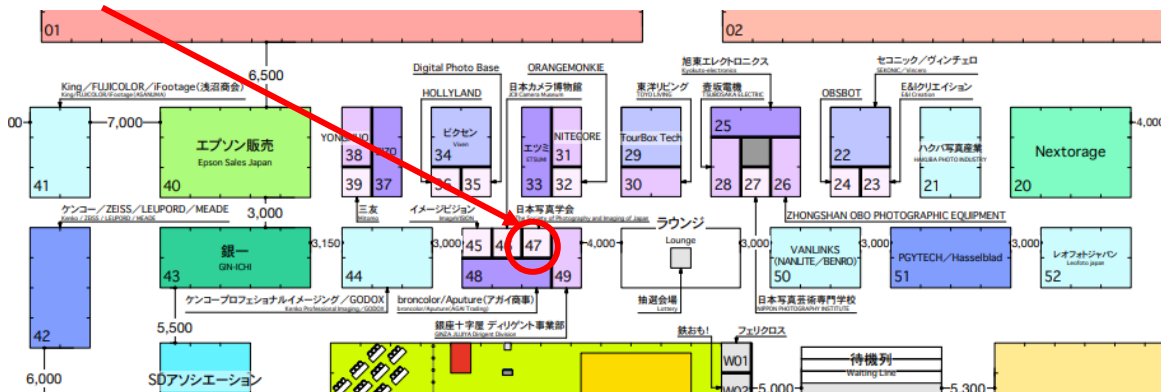
後援：経済産業省／観光庁／神奈川県／横浜市／横浜商工会議所／日本貿易振興機構（JETRO）

特別協力：日本カメラ博物館／日本新聞博物館／横浜美術館

協力：応用物理学会／カメラ記者クラブ／東京写真記者協会／日本営業写真機材協会／日本オプトメカトロニクス協会／日本カメラ財団／日本光学会／日本広告写真家協会／日本写真映像用品工業会／日本写真家協会／**日本写真学会**／日本写真館協会／日本写真協会／日本写真文化協会／日本電子回路工業会／日本フォトイメージング協会／日本望遠鏡工業会／パシフィコ横浜／横浜観光コンベンション・ビューロー

【出展レイアウト】

中央通路(中道)の **No.47** に1小間（3m四方）写真学会ブースを構築しました。（下図参照）



【出展目的】

写真学会の活動のPRと入会勧誘活動／創立100周年に向けSHASHIN研究会で検討した新たなイメージングの活動領域の紹介

【ブース構築】

写真学会ブース構築にあたりブース構築企画実行委員会を編成し、出展目的に沿った掲示内容の企画検討を行い、掲示物のプリント、会場設置を行い、会期中のブース立会と学会紹介と入会勧誘を行った。

<ブース構築企画実行委員会>

松澤良紀実行委員長(広報委員長)、桑山哲郎委員(副広報委員長)、岩崎仁委員(掲示デザイン担当)、田中里実委員(構成・設置担当)、大川泰輔委員(プリント担当)、飯野裕明委員(IT委員長)、事務局山岸治(原稿作成、パンフ等作成)

ボード掲示は、A0サイズを3面に各3枚の計9枚を掲載、用紙は撮影を考慮し反射しない、マット面を使用。デザイン担当からの提案を受け、掲示内容を読みやすくするため黒地に白と黄色の文字とした。

【ブース掲載】

写真学会ブース構築と掲示物

左面(3枚)：会長挨拶・学会目標・入会の勧め

正面(3枚)：イメージング材料・技術の未来'

右面(3枚)：大会・研究会活動



【掲示と準備】

CP+2024 写真学会ブース出展に関しては

- ・事前準備（掲示内容検討、デザイン、プリント作成、パンフ等作成、送付）
 - ・会場での荷物受け取り、ブース展示（貼り付け）：20日～21日
 - ・開催・ブースでの学会紹介と入会勧誘：22日～25日
- 各ステップで、多くの方の協力頂き、本日無事に、片付けまで終了しました。
- ・ボード掲示は、A0サイズを3面に各3枚の計9枚を掲載、用紙は撮影を考慮し反射しない、マット面を使用。デザイン担当からの提案を受け、掲示内容を読みやすくするため黒地に白と黄色の文字とした。

【成果】

- (1) 通行の多い通りに沿ったブース位置、目立ちやすい展示(大きなロゴ、黒地に白文字や見やすいデザイン等)の影響で、一日当たり50～100人の来場者があり、一日平均50枚ほどの学会パンフレットの配布と学会活動の紹介を行うことが出来た。・会期中200枚のパンフレットと100枚の入会案内配布
- (2) 学会の役員(理事・監事・幹事)や関係先(日本カメラ博物館、日本フォトイメージング協会など)、カメラ技術研究会委員などブースに立ち寄って頂き、にぎやかなブースとなった。
- (3) 学会活動に理解と興味を持って、**会期中会場での入会申込者は7名**(内学生は3名)
- (4) 学会活動に理解と興味を持って、**名刺および連絡先記入者は22名**となり、今後のイベントの案内を行うと共に、継続的に入会要請を行う、
- (5) 従来の入場入口や来場者があまり来ない外れの場所と異なり、人通りの多い場所の為、来場して頂くことが可能であった。多くの方が『初めてこんな学会があることを知った』、『こんなに広い分野で活動している』、『仕事に繋がる領域がある』、『趣味の分野で交流できる場は良い』等々、学会の告知が出来た。



2/21 ブース設営メンバー



2/22 来訪者と

<ブース構築企画実行委員会>

松澤良紀実行委員長(広報委員長)、桑山哲郎委員(副広報委員長)、岩崎仁委員(掲示デザイン担当)、田中里実委員(構成・設置担当)、大川泰輔委員(プリント担当)、飯野裕明委員(IT委員長)、事務局山岸治(原稿作成、パンフ等作成)